

静岡県立大学附属図書館

シリーズ 私の一冊の本

国際関係学部 古川 光明 先生

古川 光明 著

『 スポーツを通じた平和と結束 南スーダン独立後初の全国スポーツ大会とオリンピック参加の記録 』

閲覧室2階 333.842//F93 佐伯印刷(株)

現代の国際社会は、紛争や暴力的過激主義、貧困や格差、感染症や自然災害、難民問題など、複雑で相互に関連する国境を越えた課題が山積し、難民は6500万人を超えています。その多くの課題を含んだ、そして、世界で2番目に多く難民を発生させている「南スーダン」という国名を聞いたことがあるでしょうか。

南スーダンは半世紀に及ぶ内戦をへて、2011年7月9日にスーダンから独立した最も新しい国です。しかし、独立後の約1年半後の2013年12月には、大統領の座をめぐる権力抗争から紛争が勃発しました。その後、和平合意がなされ、暫定政権が樹立したものの、2016年7月には再び、警護隊との間で銃撃戦が起これり、全国に紛争が拡大してしまいました。

このように、独立してからも紛争が絶えない南スーダンにおいて、独立後初めて、JICAが支援した国民スポーツ大会があります。それは、スポーツを通じ、国民が民族や出身地を超えて一つになるよう願いを込めて2016年1月、全国9都市から男女約350人の選手が参加し、8日間にわたりサッカーと陸上競技で熱戦を繰り広げたものです。大会には和平交渉が揺れ動くなか、また、多くの観客が集まることから治安を懸念する声もありましたが、選手・観客ともにフェアプレー精神を貫き、大会は無事終了しました。この大会を南スーダン政府は、「国民結束の日」と称し、そして、「国民結束の日」は、「平和と結束」の象徴となったのです。

しかし、「国民結束の日」に向けた道のりは簡単ではありませんでした。南スーダン政府は紛争が繰り返されるなか、経済状況は悪化をたどり、大変な財政難の状況であったのです。文化・青年・スポーツ省には大会開催費用どころか、職員の給料さえもともに支払われていない、そのようななか、様々な関係者を巻き込みながら、問題を一つ一つ解決し、大会の開催にこぎつけたのでした。

大会が大成功し、文化・青年・スポーツ省の次なる目標は、2016年8月にブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピックへの参加でした。しかし、同年7月、再度、紛争が勃発したのです。それにも関わらず、JICAは、平和の祭典に国として参加することにより、国の結束が図られるとの願いから、オリンピック参加支援を行いました。

本書では、これまでなじみのない南スーダンについて少しでも知ってもらいたい、南スーダン人の平和にかける思いを実現しようと奔走した日本人たちがいることも知ってほしいとの願いなどから、その支援について克明に描かれています。スポーツを通じた「平和と結束」について、東京オリンピックとともに考えてもらいたいと願っています。